

教員養成における授業カンファレンスについての研究 —教育実習生の算数の授業—

塚野 弘明*

(2014年2月12日受理)

Hiroaki TSUKANO

Research on the Class Conference in Teacher Education

— Focusing on a Student-teacher Arithmetic Class at an Elementary School —

1. カンファレンスとは

カンファレンスとは、医療従事者が、臨床事例をもとに、その診断と治療法を集团的に討議し、分析・検討することで、医療従事者としての専門的な力量を高めるための方法として実施されてきた。また、臨床心理学などの個々の事例の検討が欠かせない領域においては、ケースカンファレンスやチームカンファレンスなどと呼ばれる事例検討会が古くから実施されてきた。

教育の領域においては、1984年に稲垣が授業の臨床研究（カンファレンス）として提案したのが最初である。稲垣は、授業カンファレンスを教育実践において「事例に即して検討を行い、専門家としての力量を形成していく場をつくり、それをプロフェッションとしての成長、発展の基盤」として位置づけた。

2. 教員養成における授業カンファレンス

稲垣の提案した授業カンファレンスは、現職教員が研修などにおいて互いの力量を高めることを目的としており、大学教育のカリキュラムとして提案されたものではない。したがって、大学教育における教員養成を前提にした場合、実践事例に基づいた検討という趣旨は共通していても、大学

のカリキュラムの中で実施するためには、授業者を学生が担当するとか、現場経験の豊かな教員に参加してもらうとか、大学の講義の時間割の制約に当てはまるようにするなどの方策が不可欠となる。そこで、以下のような工夫をすることによって学部カリキュラムにおける授業カンファレンスを実施することにした。

- (1) 教員を目指している学生であるため、現職教員としての成長、発展ではなく、授業の基本的力量の形成を図ることが目的となる。複数の教員による二つの授業の比較による高度な指導方法の検討ではなく、学生が自らの計画で授業を実施できる教育実習における教壇実習の授業を検討対象とした。
- (2) 大学における教員養成では、理論と実践との往還が欠かせない。したがって授業カンファレンスの場を学生教育を媒介にした理論と実践との融合を図る場として位置づける必要がある。そのためには、理論的な検討を加えた上で、さらに実践に戻しその改善策を検証し、理論的課題、実践的課題を見つけていくという双方向的な流れが重要である。今回のカンファレンスでは、教育実習生の授業を事例とし、それに対して大学や実習校教員によ

* 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター

る理論的検討が加えられる。批評をするカンファレンス参加者は、学生を指導した実習校指導教員や教科教育大学教員、現場経験豊富な実務家教員など複数の立場の教員である。

(3) 一つの授業をビデオを視聴しながら自由に検討する場合には、長時間を必要とすることになる。事前に試行的な授業カンファレンスを時間無制限で行ったところ検討会は約6時間にも達した。そこで通常の大学の授業時間帯において実施できるように、カンファレンスの所要時間を大学の1コマ(90分)に限定し、時間内に終了できるように教育実習校の指導教諭にカンファレンスの検討課題を4点に絞った。

(4) 授業カンファレンスは、検討対象となる授業を行った教育実習生の授業改善に貢献することはいうまでもないことだが、他方で授業を行っていない多くの学生にとっても貴重な学習の機会となる。そこで、教育学部学生に広く声をかけ、議論には参加しないが、参観者という形で加わってもらった。ただし、授業カンファレンスの内容、すなわち教材、単元、指導案などについて事前に学習する必要があるため、カンファレンスを含めて3コマ分の講義を計画した。1コマ目は、カンファレンスの対象となる授業や検討課題についての事前学習、2コマ目が授業カンファレンス、3コマ目は事後学習としてワークショップである。また授業カンファレンス、事後学習の後には参観学生によるアンケート調査を合わせて実施した。

3. 授業カンファレンスの方法

全体計画の概要：

教育実習生の授業をビデオ録画し、事前に実習校担任教諭による分析を経て4つの検討課題を設定した。授業カンファレンスに参加する4名に事前に授業ビデオと検討課題を事前に見てもらった上で実施する。大学講義の3コマ分を使い、受講学生20名への事前説明及び授業録画視聴、授業カ

ンファレンスの参観、事後のグループ討議を行う。

実施日と内容：

週1回実施の講義3コマに授業カンファレンスを計画した。

1回目：事前講義

平成20年1月19日

受講生への授業カンファレンスの趣旨説明を行った上で、受講生にカンファレンスの対象となる授業の視聴、教科書、指導書、指導案、板書計画などにに基づき事前学習を行う。

2回目：授業カンファレンスの参観

平成20年1月26日

4名の参加者が、事前に設定した検討課題について授業ビデオを見ながら参加者が議論する。学生はその様子を参観し、直後に学生アンケートを実施する。

3回目：事後講義

平成20年2月2日

授業カンファレンスの記録、各資料等に基づいて参加学生にグループでワークショップを行い、発表する。事後アンケートを実施する。

カンファレンスの参加者

授業者(教育実習生3年)

大学教員(教科教育担当教員)

実習校担任教諭(授業者の実習指導教員)

実務家教員(算数を専門とするベテラン教員)

カンファレンスの対象となる授業

平成20年9月2日(木)

教員養成学部教育実習生が実施した小学校6年生の授業

算数単元名：「分数のかけ算とわり算を考えよう」

授業者

教員養成学部教育実習生(3年)

担任

教育実習校指導教諭

カンファレンスの参加者

授業者、教育実習校指導教員、学部教員、実務家教員、参観学生25名

カンファレンスの日時場所

12月10日（月）、場所 大学講義室

手続き**（1）検討課題の決定と事前準備**

カンファレンスの検討課題は、実習校担任が決定し、カンファレンス参加者に伝えるとともに、参加者には事前に、指導案、教材および授業録画を見ておいてもらう。

検討課題

- 1 立式の指導について
- 2 計算の仕方を考えるとはどのようにすることか
- 3 計算の仕方を考える際に、図をどのように活用するのか。
- 4 計算指導における計算練習のあり方

（2）カンファレンスの実施**事前講義**

平成20年1月19日 14：45～16：15

講義受講生に授業ビデオを見せ、教科書、指導書、資料、指導案、板書計画などに基づき授業の解説を行う。

カンファレンス

平成20年1月26日 14：45～16：15

検討課題について授業ビデオを見ながら参加者が議論する。学生は参観し、直後に学生アンケートに答える。カンファレンスの様子はビデオ録画し、記録として残す。

事後講義

平成20年2月2日 14：45～16：15

カンファレンス記録、各資料等に基づいてグループ討議、学生アンケートをしてもらう。

結果**カンファレンス記録の要約**

カンファレンスのビデオ録画を起こし、トランスクリプトから検討課題に沿って要約した。

検討課題1. 立式の指導

- $4/5 \times 2/3$ という立式は、「かけると答えが増える」「わると答えが減る」と理解している子どもには難しい。

- 分数の場合は、小数と同様に「かけ算をする」と答えが減る」場合がある。

- 「基準量×割合」の理解が必要になる。

検討課題2. 計算の仕方を考えるとは

- $4/5 \times 2/3$ の見通しを持つとは、既習の分数×整数にどうやって持っていか（ $\times 3$ 、 $\div 3$ ）と、面積図を使って考えることが考えられる。
- 授業の流れでは、前者についての疑問が子供から出されたが、十分取り上げずに唐突に面積図を出して考えさせた。この流れに再考が必要である。

検討課題3. 計算の仕方を考える際に図をどのように活用するのか

- $4/5 \times 2/3$ の計算と図の操作の仕方を関係づけて指導する。
- 「分母の3で割る」「分子をかける」「 5×3 は、何を1としているのか」などを抑えながら指導する。

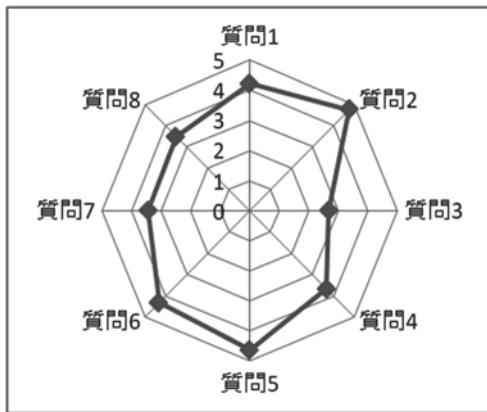
検討課題4. 計算指導における計算練習のあり方

- 時間のなかで効率よく練習させる。書かせながら答えあわせをするなど。
- 計算ミスを共有することも計算練習のあり方としては大切である。
- ノートの書き方を指導しないと記入ミスにつながる。
- 考え方の繰り返し練習も必要である。

「カンファレンス直後」アンケート結果

1. カンファレンスの議論はよく理解できた。
2. カンファレンスでは授業の改善すべき点をよく検討していた。
3. もっと多くの検討課題を議論してほしい。
4. カンファレンスは教育実習での授業研究会とは異なる。
5. カンファレンスは実践的指導力をつけるために役立つ。
6. 学部のカリキュラムにカンファレンスがあればよい。
7. カンファレンスの時間は十分ではなかった。

8. 参観学生も議論に加わるべきだ。



自由記述

1 (中・社会 4年)

他の学生の意見を聞くことができ、大変勉強になった。やはり、自分とは異なる視点で授業を捉えることは重要だと感じる。グループ議論を進めていく中で、「子どもの思考」に合わせようとする視点は明確に持っていることが分かった。しかし、T先生がおっしゃったように「教員の意図」や「教材観」といった視点が弱いことを痛感させられた。子どもの思考に合わせるという言葉はとても耳障りのよい言葉だが、そこだけに留まっていたはいけないのだろうと思う。子どもの思考に合わせることを基本・根底としつつも、教員自身の「教える」ことに対する明確な考えを持つことが重要だと感じた。また、ポストイットを用いて紙にはり、視覚的に整理することで、自分自身の思考も整理することができたと感じた。さらに、グループ議論をするにあたり、私は仲のよい友達とグルーピングすることができたため、進めやすかったが、「初めまして」のような関係同士で進める場合は、自己紹介のような時間が必要だと思った。やはり、お互いをよく知らないと言論も進めづらいのではないかと感じる。

2 (小・教育学 4年)

グループ議論は同学年ということもあり、話しやすかった。ただ自分がどういう考えでポストイットに書いたかを説明するのは難しいものであった。同じ授業であっても多方面から見ることができ、長所と同様に改善点も見受けられた。子ども

の思考を重要視するあまりに教師としての具体策を考えるのが足りなかったのではないかと反省している。また、算数の授業に絞りきらず考えていたので、教材観という点で不足していたのかもしれない。どうしても教師の理想論(都合のよい方)からばかり、見てしまいがちであるが、子どもと教師の厳しい場面も考えることも欠くことはできない。教師と子ども達の活動のバランスと評価の在り方についても考えていかねばならないと思った。子どもの評価をすることで次回の授業の改善点を見つけ出し、よりよい授業を共に作っていくことを目指したい。

3 (小・実践学 2年)

班によって考え方やテーマ設定が異なり、子どもを中心にしたテーマや授業内容についてのテーマなど、様々な視点からの考えを聞くことができ、とても勉強になった。T先生の意見を聞いて、「子どもの考えに沿う」ことの中に「教師側の教材の目的をしっかり持っていることが大切」という話を聞いて、子どもの主体性も重視しなければならないし、学習内容の理解の質も高めなければならないので、授業をするということは本当に難しいことなのだと改めて実感した。「教材に厳しく、子どもに優しく」という言葉が私の心にとっても響いた。この言葉を実行するためには、もっともっと勉強していく必要があると思った。

4 (小・教育学 4年)

今回のワークショップを経験して、数人の考えが集まることによって、いくつかの問題意識が浮かび上がり、骨組みができて、感心した、と言うか驚いた。そのようなところからも一人だけで考えるのではなく、他人と意見を交流し、考えを深めていくことの重要性を感じた。その際に必要なのは、コミュニケーションの力と自分の意見をまとめていく力だと思う。今日の自分には、これらが欠けていたと思うので、努力して身に付けたい。また、今日は授業を題材にしたワークショップだったが、同じような取り組みは子どもに対してやっても面白いのでは、と思った。例えば、学級で問題が起こった場合、一人ひとりに自

分のクラスについて思うことや気になることを書き出させれば、クラス全体の意見をまとめ上げていくことで、子ども達自身が気付くこともあるだろう。問題解決の一つの手立てとして考えておきたい。もし、そのような状況で機会があればやってみたいと思う。

5 (小・社会 4年)

私は4年生グループでカンファレンスを行ったのだが、やってみてみんなの思考が似ていることに驚いた。似ている主張ごとにまとめてみると、私たちの考える授業とはどのようなプロセスで流れていくのか、どのような部分に力点を置いているのかが明らかとなっていった。また、他の人の授業を見ることでも、私だったらこのような切り返しをするのにな、と自分の授業の在り方を確認することもできた。またその逆でこのようにすればいいのか、と学ぶことも多かった。そして、カンファレンスで終わるのではなく、他のグループのまとめ方を聴くこともとても勉強になるし、立花先生のご助言によって、自分たちの考えた授業の在り方に足りない部分を発見することができた。とても有意義な取り組みであると思う。これからも続けて行って欲しい。

6 (小・社会 4年)

自分の意見を述べるということは、まず何を言うかを考えなくてはならないし、他人に分かるようにどう話すかということも考えなくてはならず、結構大変なことだと思う。しかし、だからこそ他人と話し合い議論することはとても価値があるし、学びがいのあることなのだと思う。このようなグループワークをすると、「自分の考えがこれほど浅かったのか。」とマイナスの意味でも自覚されるときもあり(今回も少しそうであった)、勉強不足や素質の無さを痛感させられる。みんなで議論し考えを深め合うことが主な目的であるから、そのように感じることも間違いではないだろうが、一人ひとりが本当に主体的に考えを述べることは、ある意味差別化する面も含んでいるのではないか。(もちろん、メリットの方が大きいと思うが。)いくら考え、実践しても100%完璧な授

業をすることが無いこの世界に、大きな魅力と見えないゴールの遠さを感じる今日この頃である。

7 (生涯教育 4年)

今回は前回の続きで、意見交換をしたが、とてもいい活動になった。個々人で捉え方が異なるので、出てくる意見がいろんなもので勉強になった。その分自分の視野が広がってよかった。このような活動は必ず自分の考え反映されるので、授業を主体的に取り組んでいる感じがした。そして班ごとに発表したことで、また新しい考え方が知れてよかった。ただ、メモ書きのように書いたものを前に貼っても見えなかったので、全部の班のまとめもの(模造紙)を見て回るやり方でも良かったのかなと感じた。そうすれば具体的な考えも知ることができると思った。そして最後に立花先生の総括をいただいたことで、全体としてのまとめができてよかった。学生だけではこの活動には限界があると思うので、教授の意見も必要だと感じた。カンファレンスは全体としてとても有意義な活動だと感じた。

8 (小・実践学 2年)

初めてグループ議論をした。あるテーマに沿ってみんなで考えると、これだけの違った意見が生まれてくるものだなあと感心した。一つの流れをみんなで議論して作り上げていく活動というのは、自分の意見を主張したり、まとめ上げていくという点においてとても大切だと思った。また違うテーマでグループ議論をしてみたい。T先生がおっしゃっていた「教材に厳しく、子どもに優しく」というのがとても印象的だった。また、生徒に沿った授業展開に教材という軸があってこそ成り立つものということだったので、教師と生徒のバランスを上手くとった授業をしたいと思った。

9 (小・教育学 3年)

私たちのグループは「授業において教師に必要な力」という課題設定をしました。そのことを通じて、自分は何のような力を延していきたいのか・いけばよいのかを考えていくきっかけになりました。

私たちのグループのような課題が自分に上がつ

たのも、前回のカンファレンスを聴講させていただく経験があったからだと思います。前回のカンファレンスはとても有意義で、意識が高まりました。教員養成課程の講義においても、あのような形式の学びがもっとあればよいと感じました。

10 (小・教育学 3年)

今日のグループ議論は、自分たちの考えを深め、整理する上で有意義でした。今日初めてこのような形式でのグループ議論をしてみて、とても面白かったです。他のグループの考えも視覚的に見えて、自分たちの気付かなかった部分にも気付かされ、グループ内での議論だけでなく、他の発表も見れたこともよかったです。このようなグループ議論は、他の講義でもやるべきだと感じました。自分の考えを人に伝える機会は、先生に提出するレポートくらいなので、自分の考えに加えて他人の考えも聞くことで、さらに考えが深まると思いました。

11 (小 3年)

グループで議論することで、他の人の意見によって自分の考えを見つめ直し、互いに影響しあいながら考えを構成していくことができました。専門教科が異なる者同士であったため、様々な視点から同じ題材について考えることで、多面的な思考をすることができました。また、他の班の発表を聞いて、同じグループ議論でもその班なりの性質があって興味深いと思いました。一つの課題に沿った意見を関連付けていくことに関心を持ちました。つながりを持たせることでそれぞれ離れていた意見を自分の中で理解を深めることができました。

12 (中・数学 3年)

グループで討論することによって、ほかの人の意見を聞くことができよかったです。自分一人では思いつかなかったこと(意見)が出てきて勉強になった。また、出てきた意見をまとめることによって具体的にテーマを表現することができたと思う。こういう授業を実習前にやりたいと思った。そうすれば授業についてイメージを持つことが出来たかもしれない。また、3年生の実習の授業を

評価することで自分だったらこういう展開をしただろう、とかどんなねらいで授業を展開したのか、など一つの授業を作るにあたっての注意(留意)点を考えるきっかけになった。

13 (小・数学 3年)

課題を考え、発表していただくだけではなく、視覚的に確認しながら思考を深めることが出来たので、分かりやすかったです。ただ頭の中で考えるより、作業を通して整理すると、全体との関連が見えてきて新たな発見をすることが出来ました。自分たちのチーム以外の発表や図を見ると、様々な切り口から考えているのをすごく強く感じました。一つの課題を練り上げていく過程が、図から見えてきて、自分の参考になりました。今回、この講義は選択してとりましたが、もっともっと必修の授業の中でこういった授業や議論の場が欲しいと思いました。ある程度の人数で、特に教育について議論を行う場は、教育学部だからこそ、もっとあった方がいいと思います。

14 (小 3年)

今日のワークショップにより、思考を分類・評価することの難しさを再確認した。やはり、思いつきではなく、目的を先に持って、そこから枝を広げるように思考を展開していく方が、自身の思考をメタ認知するために有効であると感じた。発表においては、グループごとにまとめた方がそれぞれ異なり、新しい視点を得ることが出来た。発表の内容を聞くだけでも充分、班ごとにどのような話し合いが展開されたのか想像することが出来た。最後の立花先生の質疑応答から、必ずしも100%生徒主体がいいわけではなく、時に応じて教師が引き上げることも必要なことが分かった。

15 (小・国語 3年)

今日KJ法で考える方法を行ったが、自分でも気づかない自分の考えに気がつくことが出来た。また、他の学年の考えを知り、視野が広がったように思う。ぜひ次、行う際は違う学年同士がグループになり行うとよいと思う。情報交流も活発に行われるのではないだろうか。カテゴリー分けは比較的容易であったが、それらの関連を考えると

ということが大変難しかった。実習の際も授業を考える際、マッピングを使用して考えたので、ぜひ日常の中でも取り入れていきたい。T先生の生徒と教師の活動量のグラフが大変参考になった。

16 (小・実践学 2年)

自分たちでテーマを決めて意見を出し合うという作業は、他者の考え方からも多くの気づきがあったのでよかったと思います。しかし、まとめる作業において、意見を分けて、それぞれの特徴をつかみ取ることが難しいと感じました。個人の考え方が異なるため、出した意見の意図を見極めて話し合うことが大切だと思いました。前回のカンファレンスを参考に各グループが同じテーマによるカンファレンスが行われれば、グループで発表しあったときに共通のテーマで多くの視点に気づくことが出来るという利点もあるのではないかと思います。今回のカンファレンス後に意見交換の仕方の留意点などを教わったので、また機会がある時には、そのことに気をつけたいと思います。

17 (小・実践学 2年)

同じ学年同士の議論ということで、2年生なりの意見を出せたと思う。やはり、T先生の言うとおり、厳しさが足りないと感じた。教育実習で算数の授業をやると思うが、その時は自分なりの意図を持つことを忘れないでやりたいなと思った。グループごとの発表は、他の意見を聞けると同時に、自分の考えを深められるので、とても良い機会だと思う。他学年同士でやったらまた違ったグループ議論になったのだろうと思う。教育実習に行けば、また考えが変わってくるのだろうと思った。

18 (小・家政 4年)

「教材に厳しく、子どもに優しく」という言葉が勉強になった。先生が言っていたとおりに教師のことや評価に関することは確かに今回頭になかったので、ハッとさせられた。実習校で勉強させていただいたときも同じようなことを言われたのに忘れてしまっていたので反省した。今回の事後カンファレンスにおいては、様々な人の考え方や考えの構成の立て方などを知ることが出来たので

勉強になりました。今回の事後カンファレンスのメンバー構成は人数自体にもばらつきがあったので、その辺を改善した方が良かったかもしれないなと思いました。

19 (小・心理学 3年)

何度かやって、練習してみる必要があると思う。様々な意見を出させるためには、学年などをばらばらにしてやる必要があるのではないかなと思う。このような講義を行う機会がもっとあれば、一人ひとりの考え方も深まっていくのではないかなと思う。算数の授業だけではなく、他の科目でもやってみたい。

20 (小・実践学 3年)

カンファレンスを実際にやってみて、ほかの人の意見や考えを聞いてよかった。同じテーマであっても違う考えがたくさん出されるので、自分の思考を広げたり、深めたりすることが出来ると思った。今回のカンファレンスでは、私の班は全員カンファレンスをやったことが無かったので、最初はどのように進めたらよいか分らなかった。講義でカンファレンスを取り扱うのだったら、やり方からきちんと押さえる時間を取るべきであると思った。また、今回は学年別にグループを分けていたので、学年によって捉える視点が偏ってしまうのではないかなと思った。学年を超えたグループ分けをすることで、様々な視点からみた意見や考えが出てくるのだと思った。

21 (小・保健体育 2年)

議論自体、非常に意見交換が活発であり、有意義なものであった。自分一人では考えつかなかった意見が聞けたのでよかった。また、他の班の発表もよくまとまっており、これからの実習等の役に立つものであった。ただ、少々時間が短かったことが少し残念だった。全体的には満足度の高いものであったように思う。

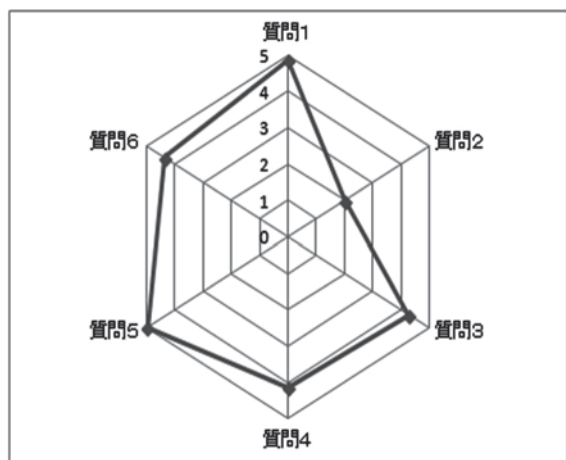
22 (小・実践学 2年)

今回は、学年ごとのワークショップであったが、一人ひとりが様々な考えを持っていて、みんなの考えをまとめていくと一つの答えが出たりして、とてもいい機会になった。違う学年同士でグルー

プを組むとまた違う考え方も出てくるのかなと思った。他のグループの発表でも色々な考えがあって、聞く側としても考えさせられること、感心した点が多くあった。今日話し合ったようなことを、自分が指導する立場になったときに参考にして、授業づくりをしていきたいと思った。

事後講義におけるグループワーク後アンケート結果

1. グループ議論は有意義だった。
2. 議論はやりにくかった。
3. 議論する時間が足りなかった。
4. 検討課題別の議論よりすべての課題で議論がしたかった。
5. カンファレンスに縛られず自由な議論がしたかった。
6. 議論は活発に行われた。
7. 他の学生の意見が聞けてよかった。
8. 学生による議論を授業にもっと取り入れるべきだ。



自由記述

1 (小・保体 2年)

私はまだ2年生ということもあり、授業経験がない。なので、初めに実習生の先輩の授業を拝見して、完成度が高いなと感心するばかりだった。しかし、今日のカンファレンスの中で、こんなにも検討課題があるのか、ということに驚いた。専門家の話を生で聞ける機会というのは滅多にないので、このような機会に恵まれたことは本当にうれしく思う。

2 (小・教育実践 2年)

今日のカンファレンスでは、私の中にはない観点からたくさんの指摘が出ていて、とても勉強になった。特に図の利用の仕方については、図の大切さや計算との関連づけなど、本当に深いものだった。授業を改めて、たくさんの人から見つめなおしてもらい、意見をもらうことで、本当により良い授業づくりにつながったと思った。

3 (小・教育実践 2年)

子ども達にわかりやすい授業をすることがどれだけ大変なことなのかが分かり、解き方をただ教えるだけではなく、計算にたどり着くまでにどのような考え方をすればいいのか、子ども達はどのように考えているのかを含めて、授業づくりをしていかなければいけないと感じた。また、考えていくうえで、図や数直線、グラフ等の扱い方についても、しっかり考えていかなければならないと思った。カンファレンスをするすることで、これから実習を行う私にとっては、とても役立つものであったし、実習を終えた人には自分の授業や教え方を見直すいい機会になると思うので、これからも続けてほしいと思った。

4 (小・教育実践 3年)

カンファレンスはより良い授業を作るためには大変役に立つ内容だけれど、教育実習前と教育実習後に参加するのでは感じることや考えることが違うと思った。教育実習前だと授業のイメージがなかなか持ちにくいのではないかと思った。なので、実習前はカンファレンスの様子を観る、実習後には実際に参加するというように、何回か受ける機会があればいいと思った。

今回は算数だったけれど、他の教科のカンファレンスもあればいいと思った。

5 (小・教育実践 3年)

もっともっとカンファレンスをやってほしいです。

6 (中・数学 3年)

授業を詳しく解説してもらえたので、授業の本質、生徒につけさせたい力は何かを教師は考えなくてはならないと強く思った。図の使い方、式と

の関連づけ方をうまくやらないと、生徒たちの理解を深めてあげられないと思う。

7 (小・数学 3年)

一つの実践を通して、授業の在り方を検討することができたのがよかったと思っています。カンファレンス流れをよく理解していなかったので、どう加わっていけばいいのか迷いました。

8 (小・教育学 3年)

本日は勝手に参加させていただきました。カンファレンスの議論はよく理解できませんでした。とても勉強になりました。

本日最も強く感じたことは、このような授業を自分たちが1年のころからやってほしかったです。悲しいです。

9 (小・家政 4年)

教育実習を行ったのが、随分前だったので、実習中の内容が思い出されてきていい勉強になりました。今までにない授業形式だったので、とても新鮮でした。分数の掛け算については実習中見たことがなかったので、改めて私も勉強することができました。また、言葉の意味を考えながら発さなければいけないこと、指名する人を選ぶことの大事さなども改めて思い出ことができました。カンファレンスについては、参観学生の方を向いて話していただけると助かるかなと思いました。声の届きなどが鈍る分、眠くなりやすいですし、疎外感があります。でも今日のカンファレンスはとても勉強になりました。ありがとうございました。

10 (小・教育実践 2年)

カンファレンスの時間は90分が限度であると考ええる。これ以上長くなるようなら一度休憩をはさむべきである。カンファレンスを体験して、来年度の教育実習に役立ちそうだ。特に注目すべきなのはカンファレンスの課題でもあった「計算の仕方を考える」という本質的な意味を問われたことだ。私自身の経験を思い返してみてもよく考えれば、問題の本質をきちんと捉えてからではなく、なんとなく慣れで問題を解いていた。今後もカンファレンスを実施してほしいが、その後に、私た

ちも実際に改善し直した授業をやってみたい。

11 (小・心理 3年)

カンファレンスをやるなら、あまり時間をおかない授業についてやっていかないと、不明確な部分が多くなってくのではないかと思った。また、参観学生の発言の場をもっと作った方が、様々なところに気づくことが出来るのではないかと思った。検討課題をあらかじめ与えられていたので、考える視点が分かりやすかった。

12 (小・教育実践 2年)

授業を見る機会がまだ少ないし、知識も足りないの、今回カンファレンスを見ることができたのはとても良い機会だったと思う。どこが良くてどこが悪いのかは言わなければよくわからないなと思った。授業する立場だったら、言われて気づくことがたくさんあるだろうなと思った。授業研究会がどういうものかはよく分からないが、カンファレンスは為になると思った。

13 (小・教育 3年)

既習を生かして教えるという当たり前とも言えることが、全く頭になかったため、今日のカンファレンスは自分にとって大変有意義な時間となりました。児童のつまずきを捉えて理解を全体に広げるためには、児童の思考を把握することが肝要であるということを再確認しました。授業の中で学習者それぞれがどのような考えを持っているかをつかみながら授業をすること、また、学習者の発言と学習内容を教師が結びつけてあげることの重要さに気づくことができました。図の用い方、一般化の仕方等の細かいところまでご指導くださったため、算数の授業における見識が深まったように思います。ありがとうございました。

14 (小・心理 3年)

カンファレンスの経験が、今までなかったので、とても勉強になりました。カンファレンスという方法は、とても効果的だったと思います。大学の講義だけ(話だけ)だとわからないので、実習では少し苦労したところもありましたが、今回のようなカンファレンスでは、実習前の2年生、実習を終えたばかりの3年生、そして今年の4月に実

際に教師になる4年生と、経験が様々な人たちが一緒に受ける授業では、特に有効だと思いました。大学の他の授業でも、授業のビデオや映像などを見る機会がありますが、その後の解説や問題点・改善策等はその授業者の見方に偏りがちだけど、このようなカンファレンスだと、専門の方やその分野に携わる方も交えて話し合われるので、とてもよかったです。

15 (小・教育学 3年)

今回のカンファレンスは、とても有意義だったと感じました。一つの授業で、ここまで詳細に考えていくのは、とても深く、今後の役に立つものだと思います。私の算数の授業は教壇実習初日だったため、授業をやるので精一杯で、ここまで深くは考えて授業できませんでした。今回は、「分数×分数」の計算で、子ども達にとってはとても難しいところだと感じます。ここでつまづいたら、算数に苦手意識を持ってしまうと思います。教科書だけを使って流すだけの授業ではなく、一人ひとりがしっかりと理解できるよう、教師の努力が必要だと思いました。

16 (小 3年)

今回初めてカンファレンスを見学し、授業研究会とはまた異なる実践的な授業の見方、考え方をすることができました。前回授業の場面を見た際は、教師の発問の仕方と子どもの反応を中心に見ていたため、検討課題について自分の考えを持つことがあまりできませんでした。今回先生方の具体的で視点の異なった意見を聞いて、授業づくりについてもっと学ばなければいけないと思いました。また、算数だけでなく異なる授業でも、このような機会があればいいなと思います。教師が自分を見つめ直し、授業改善していくことがこれから必要なのだと思いました。

17 (小・社会 4年)

教育実習での授業研究会と違い、ビデオを見て議論を進めることができるので、実態に合った意義深いもののように感じ、カンファレンスの有効性を感じた。また、複数の先生方が議論に参加することについても、より多面的な思考ができよ

かったと思う。これに参加者も議論に加わるには、よほどの専門知識と事前学習が必要なのではないかと思った。私たちは、子どもの思考と離れて(子どもの思考を忘れて)教壇に立ってしまうことが多いように思える。「図の使い方の説明」や「確認、繰り返し」など、本当に基本的なことをぬかしてしまいがちであるが、丁寧に全員が分かるように教えることをいつでも心に留めておく必要があると感じた。また、教育実習で私が授業をした内容とかけ離れていてかなりのギャップを感じ、勉強不足を痛感した。

18 (小・社会 4年)

分数の考え方を捉え直す、とてもよい機会となった。すでに自分は分数×分数の仕方を理解している、ということもあり、子ども達にどのような順序で指導していけばいいのかが分かりにくかったので、今後とても役立つと思う。カンファレンスの中で最も印象に残ったことは、何度も繰り返して子ども達と確認しながら進めることが大切だということだ。「どうしてこうなるの?」「3ってどこの3?」と、子ども達に問いかけ、子ども達自身の言葉で語らせ、理解し、定着させていく必要があるのだなあと感じた。そのためには、あえて間違った考え方や、オリジナリティーな求め方を取り上げたり、練習問題で再び違う数値を使って確認することが大事なのだと思った。また、面積図と計算の関連づけがとても難しいなと思った。ただ、図を提示するのではなく、こちらで図の使い方や数との関係を見出せることもしていかなければならないのだなと感じた。勉強になりました。

19 (小・社会 4年)

質問項目4 [カンファレンスは教育実習での授業研究会と異なる] に関して、授業研究会とどう違うのかあまり分からなかった。また、指導主事や研究者がいなくては成り立たないものなのか。大学の教員養成のカリキュラムとしてのみ意味をもつものなのか。前時、授業を見た時はどこがどうまずいのか、あまり分からなかった。また、自分自身“考え方”を考えることに虚しさを感じて

いたが、それは図の操作と式の計算がつながっていないためだということが分かりとても納得した。このカンファレンスでは、授業の組み立てについてはもちろんのことであるが、方法（何度も繰り返してあげる、分かっているようなことも問い直す）等にも触れられており、学部の教育方法の講義ではカバーしきれないところもカバーされており、実際の授業スキルアップにとっても有効だと思う。一つの授業を行うためには、学問の系統性を知っておくことも必要であるが、このように実際の授業を見てスキルとして獲得をすることも、いくら初任であっても担任として一人で40人の子どもの成長に責任を持たなければならない教師を養成するためには大切にすべきだと思う。

20 (小・実践学 2年)

今回のようなカンファレンスの機会がもっとほしいと思いました。大学の授業では、現場の授業の様子を見れることは少なく、授業見学をした際も、どこに注目すればよいのかが分からない状態でした。しかし、先生方のお話を聞きながら、意識する必要があるポイントが少しわかってきました。特に大切だと思ったことは、子どもの思考や学習に対する欲求を理解することです。授業を実施する前に、子どもの考え方を予想して授業を立てることが難しいと思うので、その段階で気をつけることなども学びたかったです。また、今回は算数の一部分であったので、他の範囲や異なる学年、別の教科のカンファレンスがあれば、実践的な学習につながると思いました。全体を通して、先生方の解説やアイデアが分かりやすく、とても新鮮で、集中してお話を聞くことができました。経験と学習内容の深い理解が大切だと実感できたので、今年度の教育実習に今回学んだことを活かしていけたらよいと思います。

21 (生涯教育・日本語文化 4年)

初めてカンファレンスの授業を受けたが、勉強になった。実習生のその時の生の声も聞けたし、他の先生方の鋭い指摘や意見が聞けてよかった。私は中学校の実習だったし教科も違うので、少し抵抗感があったが、子ども達に自分で考えさせ、

理解させるということは同じなんだなと思った。今回の算数の授業では、式とグラフの概念やその関係性をどう教えるのが難しかったと思う。形式的に覚えてしまっただけでは応用が利かなくなり、授業として面白みがない。子ども達の自己解決が理想的だが、なかなか難しいというのが現状のようだった。こればかりは事前に綿密な準備が必要だし、その場での柔軟な対応が求められるなど感じた。このカンファレンス自体は、聞いている側の意見がほしかったと金野先生はおっしゃっていたが、正直聞いているだけで精いっぱいだった。それに事前に自分の中にあつた疑問も先生方のやり取りを聞いていく中で解決されたので、質問もできなかった。でも今日の授業の前に事前カンファレンスをやっておいてよかったと感じた。このカンファレンスは普段の講義と全く違ったので新鮮で楽しかった。

22 (小・教育学 3年)

大変になる充実した授業でした。このような授業（カンファレンス）がカリキュラムに取り入れられればよいと感じました。私は3年間講義を受けて、「これによって教師としての力量が本当につくのだろうか」といつも感じていた。最近、「講義で学んだことを自分がどう生かせるか考えることが大事なのだ」と考えるに至った。しかし、このカンファレンスは、学生の実践的指導力を高めていくことができるものだと感じた。しっかりとした教育学や教科教育学と、実習、演習、そしてこのようなカンファレンスが両立してこそ、本当に力をつける、教師を育てる教員養成課程であると思う。

23 (小・教育学 4年)

分数×分数という、自分でもあまりよく理解していないような分野だったのでとても為になった。私自身がまず理解するのに役立った。ただ、図の使い方が分かっていたなかったこともあり、何故縦に3等分するのかを考えてしまった。カンファレンスでも話があったが、理解の手段として用いるものの理解ができていないと、本末転倒になってしまうのだと実感した。そして、子どもの反

応を見て、一部の人のものか、全体のものかを掴み取り、それを子ども達に返す必要があることも感じられた。ただ、進行通りの答え、反応が返ってきたからといってそのまま進むのではなく、時間をかけてでも全員が理解できるように反復して確認することも大切なのだと思う。カンファレンスにより、自分でどこがよくわからないのかよく分からないところもあったが、その疑問が少し解決できたように思う。

24 (中・社会 4年)

算数の授業における図の活用の意味を改めて考えさせられた。私自身、分数の計算には苦手意識を持っていたので、式の意味を深く考えることなく計算していたので、図で式の意味、計算の意味を深めることは非常に重要なことであると感じた。「なぜこの式になるのか」「なぜ、この計算で答えが求められるのか」をしっかりと把握した上で計算するのとししないのでは、大きく意味が異なると感じた。そして、それこそが算数という教科で大切にしなければならない思考であろうと思う。自分自身が、算数において「なぜ」という視点を持たず、公式に当てはめて行うという姿勢が強いので、改めて、子ども達の「なぜ」を大切にすることの重要性を感じた。また、カンファレンスという形は、授業の映像を用いて進められるため、授業を再現するという点で、非常に効率的であると思う。さらに授業研究会よりも課題の改善策などが出されるように感じるため、より実践力が高められると感じた。ただ、参観者の立場が曖昧で議論に参加しづらさが残ると感じる。

参考文献

- 1) 中央教育審議会答申(2006)。「今後の教員養成・免許制度の在り方について」中央教育審議会
- 2) 稲垣忠彦.(1995)「授業研究の歩み1960-1995年」評論社